

<参考資料> 「住宅都市地域における持続可能なコミュニティの在り方の調査研究」
(2016年度藤沢市企画政策課調査) より抜粋

第3章 調査対象地区の現況の把握 ～人口構造、地域資源及び市民活動の状況～

1 湘南大庭地区(湘南ライフタウン)の現況

(1) はじめに

湘南大庭地区は、相模野台地の南端に位置するゆるやかな起伏に富む丘陵地で、東境には引地川に沿って水田地帯が広がり、西境には茅ヶ崎市の緑と隣接する自然の豊かな地区である。また、大庭城址をはじめ歴史的文化財が点在している。

昭和40年代の急激な人口増加に伴う無秩序な市街化を防ぐため、藤沢市は、緑地資源と変化に富む自然条件を活かした、緑豊かな住宅地の開発と農業環境の保全・整備を目的として、「都市と農業の調和するまち湘南ライフタウン」の総合的なまちづくりを行った。

住宅地においては豊富な緑地資源を活かすとともに、オープンなコミュニティづくりをめざして中央けやき通り沿いに商業施設を配置し、中心部に中高層住宅を、外側に向かって低層住宅を配置している。

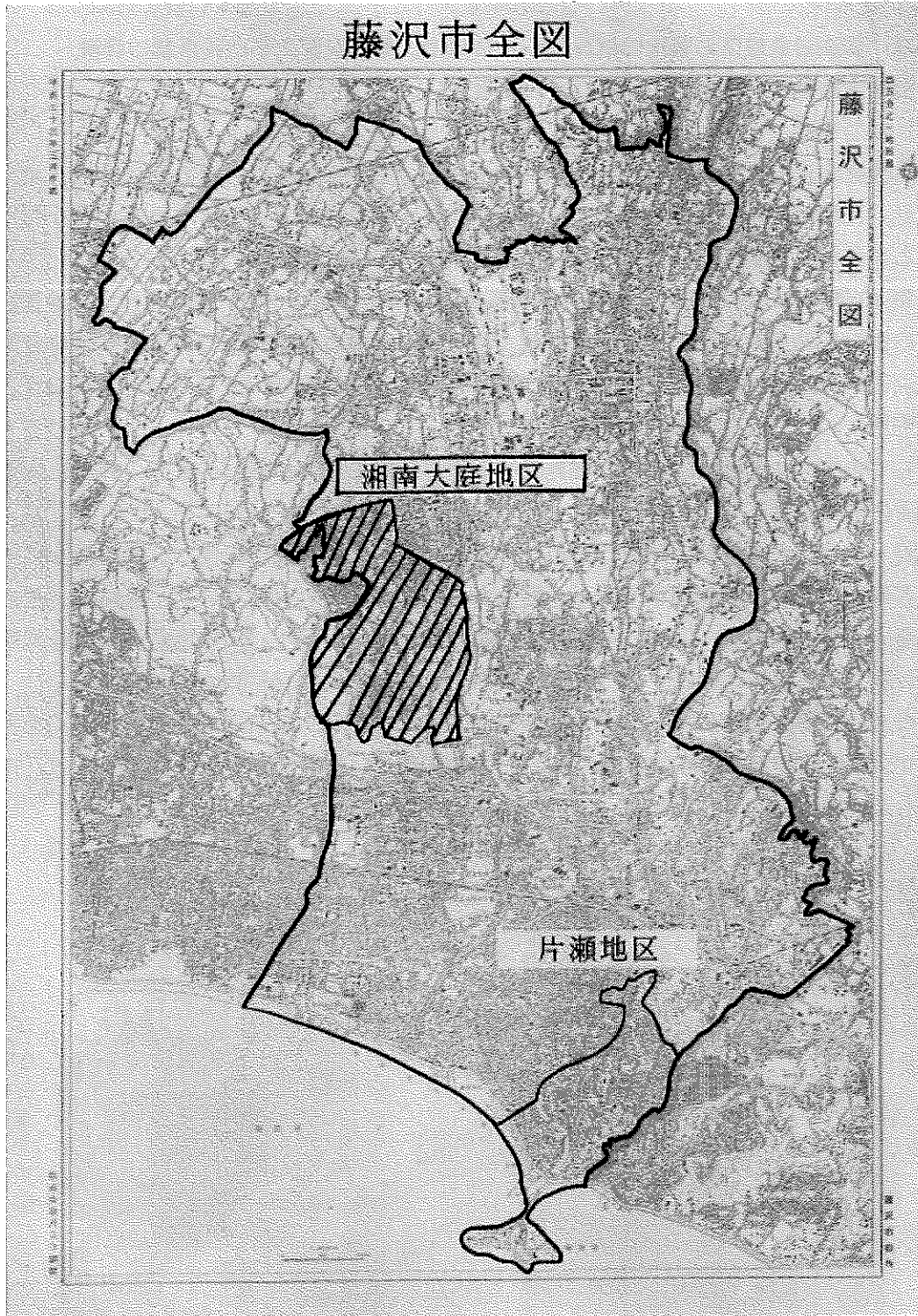
公園・緑は、大庭城址公園をはじめとする都市公園を計画的に配置し、街の所々にある歩行者専用道路には街路樹を植栽し、緑豊かな居住環境を形成している。道路は、生活道路に通過交通が入らないように機能別に配置している。居住者の交通については、辻堂駅、湘南台駅、藤沢駅等に連絡するバス網がけやき通りを中心に形成されている。

人口構成の特徴は、昭和50～60年の間に住み始めた人々とその子ども世代が多くを占めており、この数年で急激に高齢化が進み、2015年現在、高齢化率は28.07%となり、市内で最も高い地区となっている。

【湘南大庭地区の中央けやき通り】



【図3-1】湘南大庭地区の位置図



(2) 人口と世帯

湘南ライフタウンの開発エリアとほぼ重なる湘南大庭地区のこれまでの人口・世帯の推移と今後の人口推計は次のとおりである。【表3-1】

2000年から現在まで、世帯数は増加しているものの、人口はほとんど増減がなく、1世帯あたり人員は市内で最も高い地区だが、他地区と比べ、急速に減少している。

【表3-1】湘南大庭地区の人口等の推移

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
	(H12年)	(H17年)	(H22年)	(H27年)	(H32年)	(H37年)	(H42年)
地区内人口	31,822	31,685	31,638	32,235	31,242	30,073	28,449
高齢化率	7.4	12.3	19.7	28.1	33.6	36.3	38.6
世帯数	10,501	11,260	12,016	12,651	13,996	13,841	13,335
一世帯あたり人員	3.03	2.81	2.63	2.55	2.23	2.17	2.13

※2000年、2005年、2010年は国勢調査による。

※2015年は国勢調査速報値による。但し、高齢化率は住民基本台帳による。

※2020年、2025年、2030年は人口推計による。

(3) 土地利用状況

湘南大庭地区の面積は427.1haで、その内市街化区域面積が376.2ha(88.1%)、市街化調整区域面積が50.9ha(11.9%)である。区域の土地利用構成を見ると、最も多いのが住宅地で地区の37%を占めている。

地区の南北を貫く幹線道路沿いに商業地や中高層の住宅地、学校施設を配置し、これら以外は、第一種低層住居専用地域に指定され、戸建ての住宅地が配置されている。

(4) 住宅の状況

土地利用状況から分かるように、湘南大庭地区は、住宅地が最も多く占めているが、住宅の状況をあらためて把握する。幹線道路沿いの住宅地は中高層の共同住宅で、公的な住宅や都市再生機構住宅が立地している。公的な住宅では、市営住宅、県営住宅、県の住宅供給公社の住宅が立地している。全体で3,868戸あるが、その内賃貸は1,708戸、分譲は2,160戸である。【表3-2】

【表3-2】湘南大庭地区の住宅の状況

住宅の状況	住宅名	所在地	建築年度	戸数(賃貸)	戸数(分譲)	構造等
① 市営住宅	遠藤第二	遠藤817-1	s50 54-57	234	—	中層耐火構造3階
	滝ノ沢	遠藤872-1	s51-53	150	—	中層耐火構造5階
② 県営住宅	藤沢西部団地	大庭5304-1	s50	260	—	耐火 3・4・5

	藤沢大庭団地	大庭5043-3	s52 53	336	—	耐火3・5 簡2
	石川ハイツ	石川4-677-2	h7	39	—	耐火3
③県住宅供給公社	藤沢西部共同住宅	大庭5055-13 外	s50 52	450	—	鉄筋コンクリート5階 19棟
④都市再生機構	湘南ライフタウン羽根沢	遠藤905	s54	—	360	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウン駒寄	大庭	s54	—	390	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウン城山	大庭4589	s55	—	78	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウン小糸	大庭3866	s55	—	90	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウン滝ノ沢	遠藤825	s55	—	40	鉄筋コンクリート2階
	湘南ライフタウン羽根沢第2	遠藤905	s55	—	80	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウンコーポラティブハウス城山	大庭	s55	—	30	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウンコーポ駒寄	大庭5510	s56	—	30	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウン滝ノ沢第2	遠藤868	s56	—	60	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウン小糸第2	大庭3866	s56	—	72	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウン駒寄第2	大庭	s56	—	370	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウン羽根沢第3	遠藤691-4	s57	—	204	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウン小糸東	大庭3211-1	s58	—	71	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウン小糸東(戸建)	大庭3211-1	s58	—	13	木造2階
	湘南ライフタウン城山第2	大庭5244-1	s58	—	78	鉄筋コンクリート3階
	湘南ライフタウン滝ノ沢第3	遠藤868	s58	—	16	木造2階
	湘南ライフタウン小糸南	大庭	s59	—	40	木造2階
	湘南ライフタウン永山	遠藤字永山	s61	—	21	木造2階
	湘南ライフタウン駒寄第3	大庭5683-9	h3	—	55	鉄筋コンクリート5階
	湘南ライフタウンパークサイド駒寄	大庭5682	h3	239	—	鉄筋コンクリート5階～10階
湘南ライフタウン羽根沢東	遠藤695-3	h4	—	62	鉄筋コンクリート4～7階	

(5) 公共施設の状況

湘南大庭地区にある公共施設は次のとおりである。

- 1) 行政施設
 - 湘南大庭市民センター・公民館
 - 地域市民の家（4箇所：駒寄、小糸、大庭、滝の沢）
 - 藤沢北消防署西部出張所
 - 湘南大庭市民図書館、地域子どもの家（1箇所：大庭）
 - 藤沢北警察署湘南ライフタウン交番
 - 郵便局（藤沢大庭郵便局、藤沢湘南ライフタウン郵便局）
- 2) 教育施設
 - 市立小学校（4校：大庭、滝の沢、駒寄、小糸）
 - 市立中学校（2校：大庭、滝の沢）

県立高校（1校：藤沢西）

湘南大庭看護専門学校

- 3) 医療機関等 保健医療センター、藤沢市保健所・北保健センター
南部と北部に複数の医院からなる医療センターが3箇所
- 4) 公園等 総合公園 1箇所：大庭城址公園
近隣公園 3箇所：小糸台公園、二番構公園、舟地藏公園
街区公園 14箇所：台谷公園ほか
大庭台墓園

(6) 福祉関係施設

1) 介護保険施設関係

- ・特別養護老人ホーム「愛光園」
- ・介護老人保健施設「湘南わかば苑」
- ・グループホーム「グループホームえん」「ホームフレンド藤沢」
- ・居宅介護支援事業所「地域福祉支援センターマロニエ」等9件
- ・地域包括支援センター「湘南大庭いきいきサポートセンター」
- ・小規模多機能型施設「シニアメゾン大庭」「グリーンテラス湘南藤沢」
「ぐるんとびー駒寄」

2) 障がい福祉施設関係

- ・障害者総合支援法「ライフ湘南」「湘南マロニエ」「エール湘南」
- ・放課後等デイサービス児童発達支援「けいずらいふ24」
- ・グループホーム、ケアホーム「マロニエホーム」
- ・障がい児計画相談事業「地域福祉支援センターマロニエ」

3) 未就学児童施設関係

- ・保育園「小糸保育園」「大庭保育園」「五反田保育園」
- ・幼稚園「こばやし幼稚園」「藤沢若葉幼稚園」「大庭城山幼稚園」
- ・その他「大庭子どもの家」

「Glopath Education Company Shonan International School」

(7) 交通商業観光施設関係

1) 交通施設

- ・鉄軌道はなく、バスによるアクセスとなる。ライフタウン終点はバスターミナルとして整備されている。バス系統は、辻堂駅北口系統、湘南台駅西口系統が中心となる。
- ・最寄り駅（辻堂駅、湘南台駅）までバスで15分の圏域から外れる地域が多くあり、今

後の公共交通のあり方について、ワークショップが開かれ、今後の改善に向け住民との議論が重ねられている。子育て世代や高齢者等の移動をどのように確保するかの検討も行われている。

2) 商業施設

- ・ライフタウンの南センターには、ライフピア・イオン藤沢店を中心としたショッピングセンター、北センターには、湘南とうきゅうを中心としたショッピングセンターが立地している。
- ・各街区には、日常の買い回り品や生活サービスを中心とした小規模な店舗が個々に立地している。

(8) 湘南ライフタウン構想

湘南ライフタウンは、藤沢市の「西部土地区画整理事業」と茅ヶ崎市の「堤地区土地区画整理事業」により誕生したまちである。総面積は 340.74 ha、計画人口 45,000 人であった。事業着手は 1971 年であり、1992 年に完了した。

この事業は、首都圏の人口増加圧力に対抗し、無秩序なスプロール化を防止するために、計画的に整備された事業で、当初の開発のコンセプトは、建築家である黒川紀章氏が作ったものである。

1) 黒川紀章氏のデザインコンセプト

黒川紀章事務所のホームページ掲載されている黒川氏が設計した藤沢ニュータウン（黒川氏は当時、こう呼んでいた。）のデザインコンセプトは、次の通りである。

《デザインコンセプト》

藤沢市はあらゆる意味での共生都市である。

この地域には 560 戸の農家のある藤沢市郊外の農地であった。

ここに 330 ヘクタールの人口 35,000 人のニュータウンをつくることになった。

その条件は農家を一戸も移動せず、又農民がそのまま農業を続けることができるように農地の 50%をそれぞれの農家から買い上げることであった。

330 ヘクタールの面積の敷地に断片的に点在する買収された土地を、交換の方法で集めて、いくつかのまとまったブロックにした。これによって農村クラスターと都市クラスターが共生する条件がととのった。自然と都市の共生を実現し丘陵地帯の地形と樹木を保存するために、道路は等高線 (Contour Line) に沿って環状道路 (Ring Road) を構成している。学校・商業施設 etc.の公共施設は、クラスターの中央ではなく、農村クラスターとニュータウンクラスターとの間に配置され、農民 (旧住民) とニュータウン (新住民) の間の交流をうながし、都市と農村の共生を実現している。

住居へのアクセス道路はクルデサック方式、又交差点はT差路 (T字型の交差点) とな

っており、車と歩行者の共生が可能なよう計画された。

また、異なる世代の共生、老人と若者の共生を実現するため、高齢者用の低層住宅、若者用の高層住宅、家族タイプの中層住宅など多様な住居形式がMIXされている。

クラスターは細胞の単位として計画されており、将来の都市の生長が容易なマスタープランとなっている。

2) 現在の湘南ライフタウン

① 都市と農村の共生

1995年から17年の間は、地区全体で農地が都市的土地利用に転換しており、農地の割合は13%から10%に減少している。このような点から、都市と農村の共生という理念が薄まりつつある。

② 異なる世代の共生、老人と若者の共生

多様な住居形式がミックスされてはいるが、高齢化が急速に進み、現在市内13地区の中では、高齢化率が最も高くなっている。異なる世代の共生という理念から離れている状況になっている。

(9) 湘南大庭地区の市民活動

1) 自治会・町内会

湘南大庭地区にある自治会・町内会は48団体で、これらの団体が集まって自治会連合会を形成している。

各自治会・町内会の世帯数は、平成25年度において、最も少ない自治会が13世帯、最も多い自治会が722世帯である。地区全体では、9,969世帯が加入している。（「10年先を見据えた湘南大庭地区のまちづくり—検討結果の報告と提案—」による）

加入者を増やす取組としては、加入の勧誘のための資料を作成し戸別配布したり、夏休みのラジオ体操行事や祭りを通しての呼びかけをしている。

運営上の課題として、男性役員が少ないこと、高齢化が進み役員のなり手がいないこと、役員が1年交替のため継続的な取組がなかなかできないこと、プライバシー保護のことなど市内各地区のコミュニティが抱える共通の課題が多い。

各自治会・町内会には、町内会館、集会所がある。

2) 市民センターを核とした活動・・・生活環境、交通防犯、防災、福祉

- ① 湘南大庭地区自治会連合会
- ② 湘南大庭地区生活環境協議会
- ③ 湘南大庭地区防犯協会
- ④ 湘南大庭地区交通安全対策協議会
- ⑤ 湘南大庭地区防災協議会

- ⑥ 湘南大庭地区青少年育成協力会
- ⑦ 湘南大庭地区福祉協議会
- ⑧ 湘南大庭地区民生委員児童委員協議会
- ⑨ 湘南大庭地区老人クラブ連合会

3) 小学校を核とした活動・・・社会体育

- ① 小学校を核とした地区社会体育振興協議会が設置されている。

4) 地域の諸活動

- ・クラブ生活協同組合などの活動
- ・自然環境保全活動
- ・NPO活動・・・医療福祉、子育て、介護

具体例

- ・ボランティア活動センター「ライフタウン・ジョア」
- ・子育てサロン「びよびよ広場」
- ・交流スペース「ほっと舎」(ワーカーズコレクティブ「実結」)(※地域の縁側)
- ・「たきのさわパラダイス」(※地域の縁側)
- ・高齢者ホーム「かすみ草」

※「地域の縁側」とは、住民同士のつながりや支え合いを大切にしながら、人の和を広げ、誰もがいきいきと健やかに暮らせるまちづくりのため、多様な地域住民が気軽に立ち寄ることができる居場所である。2015年4月から事業が開始され、2016年10月現在で26箇所の「地域の縁側」が設置されている。藤沢市では、地域の縁側事業実施要綱等に基づき、地域の縁側の実施団体への支援として、運営費等の補助を行っている。

(10) 急激な高齢化に対する“湘南大庭地区郷土づくり推進会議”の取組

1) 概要

湘南大庭地区郷土づくり推進会議では、10年後の湘南ライフタウンをイメージしながら、現在のまちの課題を「高齢化率の増加」「稼働人口の減少」「コミュニティ活動担い手の高齢化」の3つをあげ、「住みたい 住み続けたいまち 湘南大庭」を実現するために、「高齢者支援」「子ども・子育て育成支援」「コミュニティ活動の活性化」の3つをまちづくりの柱と設定し、それぞれの柱ごとに具体的な取組を示し、報告書としてまとめ、2016年3月8日に提案を行っている。なお、報告書の参考資料として、高齢化の進む自治会と子育て世帯の多い自治会について図示している。(「10年先を見据えた湘南大庭地区のまちづくりー検討結果の報告と提案ー」)

2) 3つのまちづくりの柱ごとの検討内容

i) 高齢者支援

- ・ステップ1 課題
 - ・高齢者の支援を担う地域の人材不足
 - ・住民や家族への介護等に関する情報・啓発不足
 - ・地域資源情報の不足
 - ・地域との連携に関する課題
- ・ステップ2 対応策
 - ・空き家を地域の大事な資源として捉え、活用する
 - ・介護や医療等への包括的かつ予防的取組への支援
 - ・介護が必要となる前からの情報提供や相談窓口へのつなぎを強化する。
- ・ステップ3 方向性
 - ・先進事例を更に検討する
 - ・地域住民と一緒に考えていく

ii) 子ども・子育て育成支援

- ・地区内の関係団体が活発に取り組んでおり、湘南大庭地区社会福祉協議会では、子どもの放課後支援として、2015年10月に「たきのさわパラダイス」を開設した。
- ・子ども、青少年の健やかな成長をめざした取組
 - 地区社会福祉協議会 「たきのさわパラダイス」開設
 - 民生委員児童委員協議会 大庭子育てサロン「びよびよ広場」など
 - 子どもサポート会議 子ども教室「湘南大庭がき大将クラブ」等

iii) コミュニティ活動の活性化

- ・高齢化への対応として見守りを進める
- ・インターネットを活用する
- ・諸団体発行の回覧・配布物を統合する
- ・有志参加型自治会への転換を図る

3) 地区への提案内容

- i) 高齢者などを見守るしくみの構築
- ii) インターネットとロボットの活用
- iii) 諸団体発行の回覧・配布物の統合
- iv) 有志参加型自治会への転換
- v) 健康寿命を延ばすためのラジオ体操の普及
- vi) 24時間対応型高齢者相談事業の新設

4) 平成28年度 of 取組

報告書の提案に基づき、湘南大庭地区郷土づくり推進会議は、平成28年度に、「高齢化対策グループ」「健康増進グループ」「広報・IT活用グループ」の3つのグループでそれ

ぞれ活動し、2017年2月11日（土）に地区全体集会を行い、3つのグループの中間報告を行うとともに、意見交換が行われた。高齢者の見守りについては、「自治会町内会に住民がふれあう機会をつくるようお願いしているが、自治会側が受け止める体制はどうか」という質問があり、それには役員交代があっても、有志での声かけを続けるなど、高齢者の暮らしを支えている自治会・町内会の動きが大切であると示された。

また、高齢者が弱者にならないための対策の重要性や安否確認の手段としてwi-fi環境の整備が意見として出された。他にも自分たちができることとして、あいさつやウォーキング、町内会館を利用した体操など、顔と顔をあわせ、お互いを知り合うことの大切さが話し合われた。

(11) 湘南大庭地区「市民と市長の意見交換会」

平成28年度の湘南大庭地区での「市民と市長の意見交換会」は、2016年9月30日に行われた。テーマ、参加者、意見の内容は次に示すとおりである。

<テーマ>

少子高齢化が進む10年後を見据えたまちづくりについて

<参加者>

湘南大庭地区郷土づくり推進会議及び地区内各地域団体の長

<総括的意見>

郷土づくり推進会議議長から総括的な意見の発表

- i) 湘南ライフタウンの再活性化が必要である。それには、ライフタウン地区全体で利用価値を高めることが重要である。ライフタウン内の地区単位で取り組む必要もある。ライフタウン内には、UR、県住宅供給公社、住民、藤沢市など様々な事業者がいる。それぞれが集まってライフタウンの再生を話し合うための協議体の創設が必要ではないか。
- ii) ライフタウンには、分譲型の団地の維持管理や戸建て住宅の改築など、地域レベルで住宅についての悩みがある。その対策として、地域レベルでの住宅に関する相談体制が求められていると思う。
- iii) 若者世代の定住のために、綾瀬市では、住宅取得・リフォーム費用の一部を補助する制度を創設しているが藤沢市ではいかがか。
- iv) 高齢化が進むにともない高齢者の運転免許の返納が多くなると思われる。そうした中で、高齢者が地区内の移動をしやすいように、移動の手段を確保する必要があると考える。
- v) ライフタウンでは今後在宅介護が主流になると考える。介護人材を確保するためには、地域の人材活用などが必要であり、そのためには有償ボランティア制度の構築が必要だと考えている。

vi) 高齢者の見守り体制が今後増える見込みだが、自治会・町内会の見守る人では限りがあり、無料でインターネットを活用できる仕組みなど色々なことが考えられると思う。

vii) 住民の高齢化が進み、建物は老朽化が進んでいる。地域を取り巻く環境は厳しいが、湘南大庭が高齢化の対応におけるまちづくりにおいて、先駆的な地域になることを望んでいる。

<主な意見>

i) 窓口で、車いすの方の対応が良くないのではないか。

引地川沿いのハイキングコースの看板は、字が見えにくいので、直してほしい。

ii) 湘南ライフタウンは行政主導の区画整理事業で形成されたニュータウンである。

今、一斉に高齢化している中で、問題点が多くある。

二世帯住宅ができない。5階建ての集合住宅では、エレベーターがないと、高齢者は外出できない。交通インフラが十分でない。土日は辻堂までのバスは時間がかかるなどの問題があり、若い世代が住みにくい状況にある。

行政は、若い人が住める街にするために、施策を示すべきであるし、官民協働のプロジェクトが必要である。

iii) 地域の担い手についての状況は、自治会等については、自主的なボランティアのため、なり手が少ない。また、民生委員は今年度改選の時期だが、担い手が少ないのが現状である。何か方法はないか。

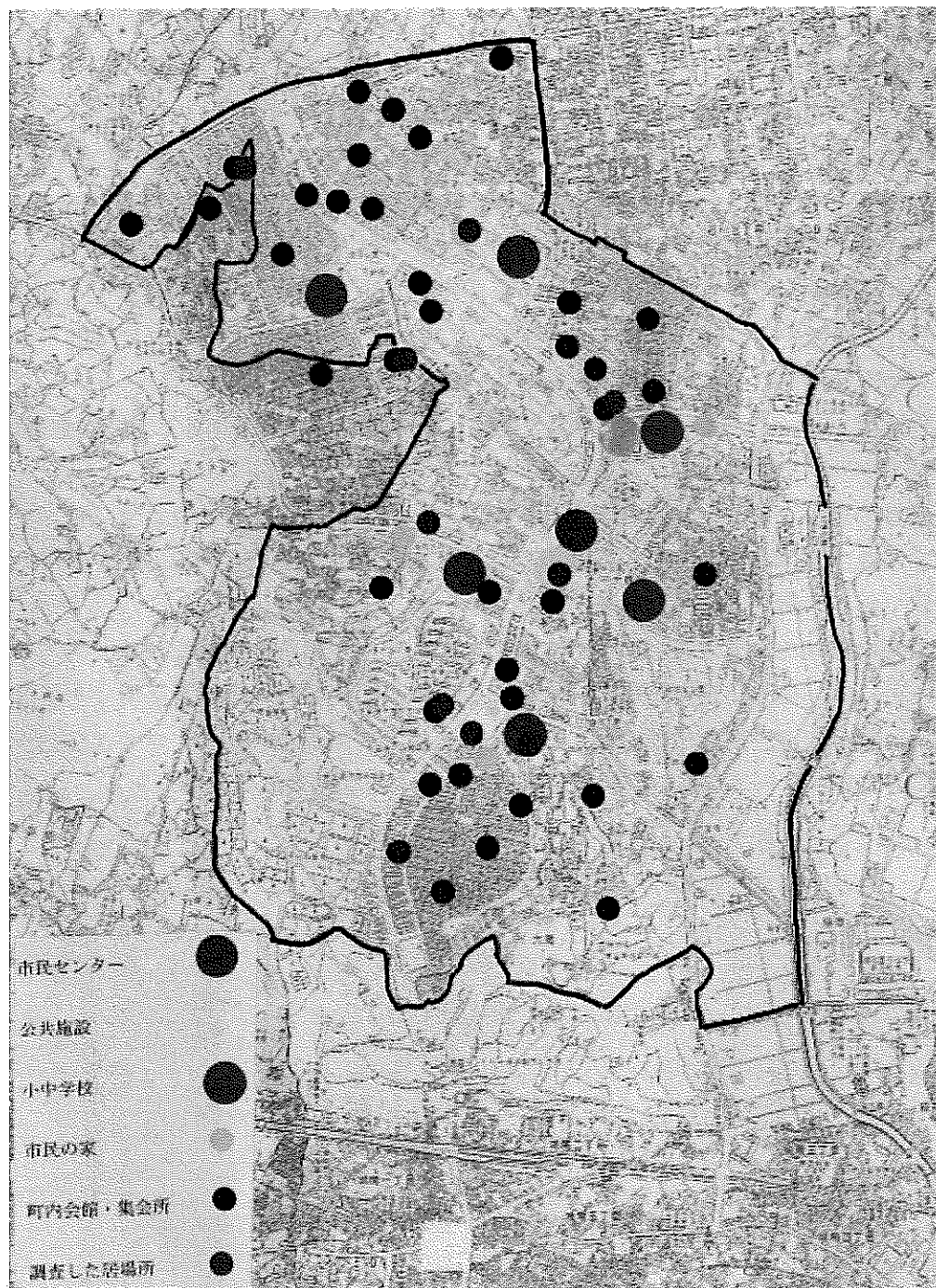
iv) 未来に向けた元気なまちに向けて、若い人の定住が進めば達せられるであろう。そのためには、流入促進策の検討、交通手段の確保、住環境の整備が必要である。賃貸住宅、集合住宅、戸建て住宅があり、それぞれで、高齢者が多く、コミュニケーションがとれないケースが多い。将来に対する方策を真剣に考える時期である。

(12) 湘南大庭地区の状況図

湘南大庭地区の施設立地状況と第5章で説明する「居場所」を示した状況図を示す。

【図3-2】

【図3-2】 湘南大庭地区の状況図



2 片瀬地区の現況

(1) はじめに

古くから集落が形成されていた片瀬地区は、中世期に蓄積された社寺等文化財がまちの中に豊富に存在し、江戸時代には江の島詣でにより旧道沿いが賑わいをみせた歴史と文化のまちである。現在では、湘南海岸や特別景観形成地区に指定している江の島の自然環境を活かした首都圏有数のレクリエーション拠点が形成されており、藤沢市のイメージを代表する地区の一つでもある。近年、観光施設のリニューアルや漁港整備等が進められるとともに、年間を通して、海洋スポーツ、TV・映画のロケ地など、多様なテーマでイベントやキャンペーンが行われ、多くの観光客が訪れている。

自然発生により形成された古くからの住宅地のほか、明治期から昭和初期に主に別荘地として開発された住宅地や、昭和40年代に住宅地開発が行われた片瀬山等の閑静な住宅地がある。また、国道134号や国道467号沿いでは、マンション立地が進んでいる。

海、川、斜面林等恵まれた自然環境に取り囲まれていると同時に、地震時の津波や台風時の高潮、河川の溢水や内水による浸水、がけ崩れ等の災害の危険性を伴っている。また、残された斜面緑地も、開発により減少している箇所がある。

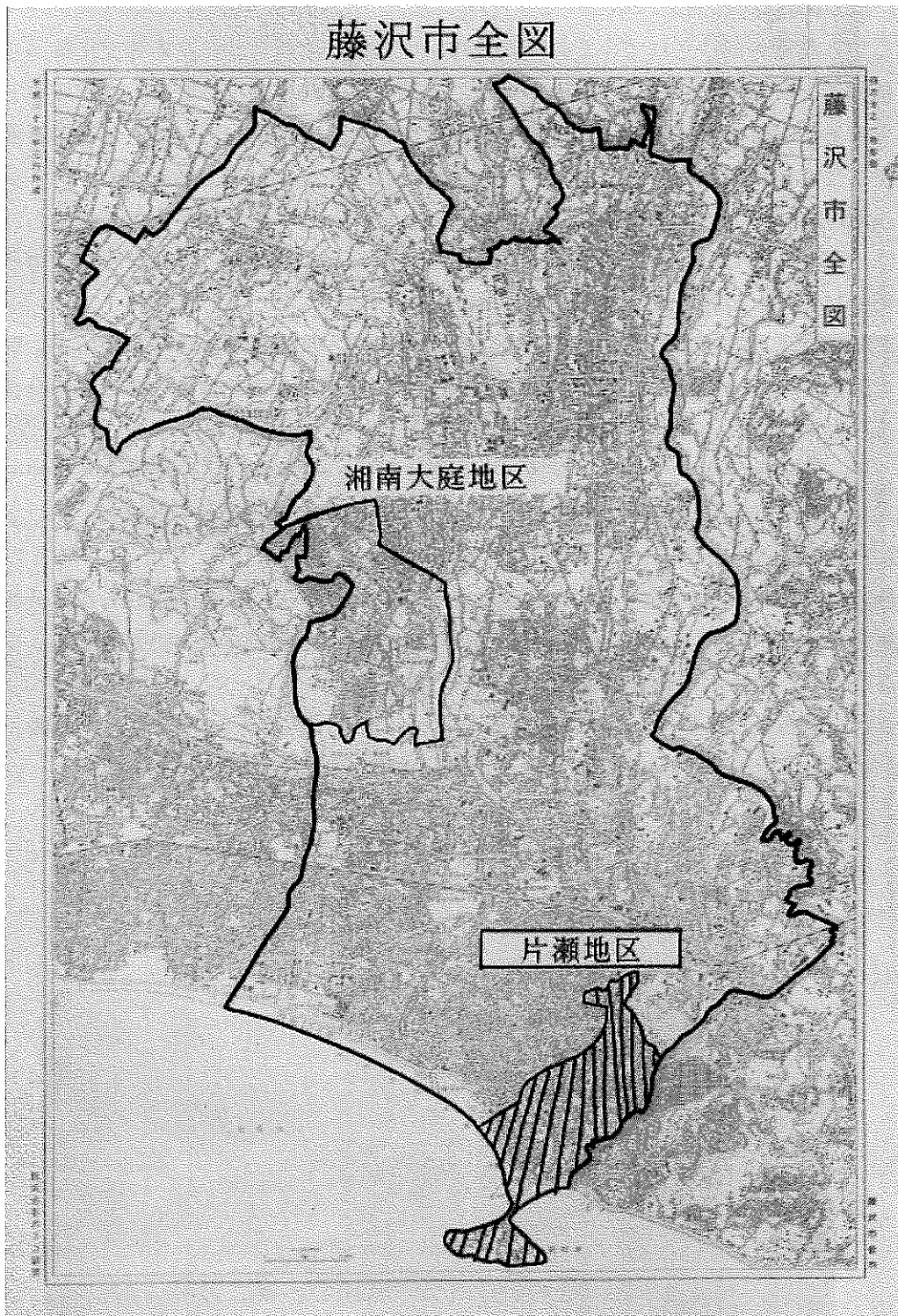
鉄軌道は、小田急江ノ島線、江ノ島電鉄線、湘南モノレールの3路線があり、公共交通が充実している。道路は、地区及び広域幹線となる都市計画道路の整備状況は低く、また、生活道路に関しては不十分な地域も存在している。

人口構成の特徴は、早くから高齢化が進んでいる地域であり、2015年現在、高齢化率は27.52%で、市内では湘南大庭地区に次いで高い地区となっている。

【片瀬山から見るまちなみ】



【図3-3】片瀬地区の位置図



(2) 人口と世帯

片瀬地区の人口・世帯の推移と将来人口推計は次のとおりである。【表3-3】

2000年から現在まで、人口と世帯数はわずかずつ増加しているが、今後は減少していくと推計されている。高齢化率は年々高くなり、2030年には3人に1人が65歳以上となることが予測されている。

【表3-3】 片瀬地区の人口等の推計

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
	(H12年)	(H17年)	(H22年)	(H27年)	(H32年)	(H37年)	(H42年)
地区内人口	18,685	20,082	20,091	20,145	19,054	18,172	17,320
高齢化率	20.9	22.0	25.2	27.5	29.2	31.2	33.4
世帯数	7,308	8,163	8,340	8,623	8,527	8,297	8,012
一世帯当たり人員	2.56	2.46	2.41	2.34	2.23	2.17	2.13

※2000年、2005年、2010年は国勢調査による。

※2015年は国勢調査速報値による。但し、高齢化率は住民基本台帳による。

※2020年、2025年、2030年は人口推計による。

(3) 土地利用状況

片瀬地区の面積は、313.3haで、その内市街化区域面積が290.1ha(92.6%)、市街化調整区域面積が23.2ha(7.4%)である。

区域の土地利用構成を見ると、最も多いのが住宅地で43%、山林や河川、海浜等の自然的土地利用が約20%を占めている。

(4) 住宅の状況

片瀬地区には、公的な市営住宅、県営住宅、県の住宅供給公社の住宅、都市再生機構の住宅は立地していない。戸建て住宅が地区全体に広がっており、マンション等の共同住宅は、国道467号、国道134号沿いを中心に立地している。

(5) 公共施設の状況

片瀬地区にある公共施設は次の通りである。

- 1) 行政施設
片瀬市民センター・公民館、片瀬しおさいセンター（片瀬公民館分館）
地域市民の家（3箇所：片瀬山、片瀬浪合、江の島）
地域子ども家（1箇所：片瀬）
藤沢南消防署片瀬分遣所
藤沢警察署片瀬江の島交番、江の島駐在所、片瀬山駐在所
- 2) 教育施設
市立小学校（1校：片瀬）
市立中学校（1校：片瀬）

私立小中高（湘南白百合学園小学校、湘南白百合学園中学・高等学校）

- 3) 医療機関等 藤沢脳神経外科病院 ほか
- 4) 公園等 特殊公園（風致） 1箇所：片瀬山公園
近隣公園 2箇所：西浜公園、西方公園
街区公園 6箇所：片瀬山東・西・南公園、上西原公園ほか
広域公園 1箇所：県立湘南海岸公園
- 5) その他 藤沢市観光センター、観光案内所

(6) 福祉関係施設

1) 介護保険施設関係

- ・特別養護老人ホーム「鶴生園」
- ・介護老人保健施設 なし
- ・グループホーム「愛の家グループホーム藤沢片瀬」
- ・居宅介護支援事業所「ケアステーション海」「学研ココファン湘南片瀬」
「居宅介護支援センター鶴生園」
- ・地域包括支援センター「片瀬いきいきサポートセンター」
- ・小規模多機能型施設 なし

2) 障がい福祉施設関係

- ・障害者総合支援法 なし
- ・放課後等デイサービス児童発達支援 なし
- ・グループホーム、ケアホーム なし
- ・障がい児計画相談事業 なし

3) 未就学児童施設関係

- ・保育園 「富士見保育園」
- ・幼稚園 「片瀬のぞみ幼稚園」「片瀬山幼稚園（2017年3月閉園予定）」
「湘南白百合学園幼稚園」
- ・その他 「片瀬子どもの家」「東京都片瀬学園」

(7) 交通商業観光施設等関係

1) 駅施設

- ・小田急電鉄「片瀬江ノ島駅」、江ノ島電鉄「江ノ島駅」・「湘南海岸公園駅」、湘南モノレール「湘南江の島駅」・「片瀬目白山駅」
- ・小田急電鉄「片瀬江ノ島駅」、江ノ島電鉄「江ノ島駅」、湘南モノレール「湘南江の島駅」までは徒歩で利用する住民が多く、片瀬江ノ島駅周辺では鉄道を利用する割合が市の平均よりも高い。また、片瀬山地区は高台にあり、駅までの15分圏域に一部外れている。

2) 港湾施設

- ・片瀬漁港（市）
- ・湘南港（県）

3) 集客施設

- ・新江ノ島水族館
- ・江の島サムエルゴッキング苑
- ・江の島ヨットハーバー、ヨットハウス

(8) 片瀬山エリアの開発

片瀬山は、鎌倉市に隣接する丘陵地である。1950年代にゴルフ場が開設されたが継続できず、1960年代に三井不動産による片瀬山住宅地開発が始まり、今日に至っている。

ここの住宅地は、第1種低層住宅専用地域として用途指定され、第1号片瀬山風致地区にも指定されている。このエリアでは、良好な住環境を維持するために、ほぼ全域で建築協定が締結されている。

なお、片瀬山エリア人口と世帯のこれまでの推移は次のとおりである。高齢化率が非常に高く、年々、一世帯あたり人員が減少している傾向にある。【表3-4】

【表3-4】

	2000年	2005年	2010年	2015年
	(H12年)	(H17年)	(H22年)	(H27年)
地区内人口	4,261	4,204	4,156	4,009
高齢化率		36.4	39.5	
世帯数	1,632	1,676	1,710	1,670
一世帯あたり人員	2.61	2.51	2.43	2.4
65才以上人口		1,530	1,641	
持ち家率		92.6	92.5	

※国勢調査による。

(9) 片瀬地区の市民活動

1) 自治会・町内会

片瀬地区にある自治会・町内会は26団体である。これらの団体が集まって、片瀬地区自治会町内会連絡協議会を形成している。

各自治会・町内会への加入世帯数は、2014年9月時点で、8,189世帯あり、地区の全世帯数(8,561)に対し96.2%となり、市内の13地区においては最も加入率が高い地区である。各町内会・自治会は、独自の町内会館を所有しておらず、国道467号沿いに共用の「五町会館」が設置されているだけである。

各自治会・町内会の共通の課題として、男性役員が少ないこと、高齢化が進み役員のなり手が少ないこと、役員が1年交替のため継続的な取組がなかなかできないこと、プライバシー保護のことなどがあげられる。

2) 市民センターを核とした活動・・・生活環境、交通防犯、防災、福祉

- ① 片瀬地区自治会町内会連絡協議会
- ② 片瀬地区生活環境協議会
- ③ 片瀬地区防犯協会
- ④ 片瀬地区交通安全対策協議会
- ⑤ 片瀬地区自主防災協議会
- ⑥ 片瀬地区青少年育成協力会
- ⑦ 片瀬地区社会福祉協議会
- ⑧ 片瀬地区民生委員児童委員協議会
- ⑨ 片瀬地区老人クラブ連合会
- ⑩ 片瀬地区子ども会連絡会
- ⑪ 片瀬地区青少年支援フォーラム
- ⑫ 片瀬 - 市民スポーツの会
- ⑬ 人材・情報バンクセンター J J B C

3) 小学校を核とした活動・・・社会体育

- ① 小学校を核とした地区社会体育振興協議会が設置されている。

4) 地域の諸活動

① サロン活動関係

- ・片瀬地区ボランティアセンター「ひだまり片瀬」(※地域の縁側)
片瀬にここ広場・つどいの広場
(相談機能：高齢者・子育て、成年後見)
- ・コミュニティハウス片瀬山(※地域の縁側)
- ・青少年居場所事業運営事業委員会
青少年サポーター(19名登録)
- ・楽しく子育て～保育室で遊ぼう～
- ・アリスの会
おはなし会(読み聞かせ)
- ・江の島振興連絡協議会

(10) 片瀬・江の島まちづくり協議会(片瀬地区郷土づくり推進会議)の取組

片瀬・江の島まちづくり協議会は、平成28年度の活動として、第1回地区集会を2016

年6月11日に、主に「市の空き家対策について」をテーマに開催した。

まちづくり協議会では、平成26年度に、「空き家ワーキンググループ」を設置し、解決に向けて取り組んできたところである。平成28年度に市が新たに「空き家対策担当」を設置し、行政が主体的に取組を強化することになったので、協議会での活動は発展的に解消することとし、地区集会において、「空き家対策について」をテーマの一つとし、活動を総括した。

(11) 片瀬地区「市民と市長の意見交換会」

平成28年度の片瀬地区での「市民と市長の意見交換会」は、2016年10月29日に(10)のまちづくり協議会主催の第2回地区集会として行われた。テーマ、参加者、意見の内容は次に示すとおりである。

<テーマ>

片瀬・江の島っ子の未来を語り合おう！ Part. 2

～小学生の放課後の居場所はどこ？～

<参加者>

青少協、青少年支援フォーラム、片子連、小中PTA、社協、民協、子どもの家、新林保教会、児童クラブ、一般参加、まちづくり協議会等

<地域での取組の紹介>

「平成27年度の地区集会の話し合い内容と片瀬小アンケートの紹介」

i) 平成27年度の振り返り

a) 「片瀬地区に暮らす子どもたちにとって必要な環境とは何か」をテーマとして、グループトークを行う。6つのグループに分かれる。参加者121名。

b) 話し合った内容

- ・公園の利用の仕方を現実に合ったようにしてほしい。ボール遊びができるような公園を。
- ・子どもの貧困に関し、勉強が遅れている子どもたちへの学習支援を。
- ・子どもの放課後について、放課後児童クラブや別の形での支援に関する問題。

ii) 平成27年度の話し合い(Part1)を受けて

- ・青少年健全育成部会で、片瀬地区に暮らす子どもたちにとって必要な環境、特に小学生の放課後の居場所について小学生、保護者から意見をまとめていくことを決める。
- ・2000年に片瀬小学校でアンケートを実施した実績も踏まえて、片瀬小学校に通うすべての児童、保護者にアンケート調査を実施することを決める。

iii) アンケートの実施

a) 2016年アンケートの概要

- ・期間：2016年6月20日～28日
- ・対象：片瀬小学校児童 694名（1年生は除く） 保護者 396名
- ・質問内容（児童）
 - ・遊び場について、遊ぶ際の人数について、遊びの内容について
- ・質問内容（保護者）
 - ・遊び場の満足度について、既存施設及び新規の要望について

b) アンケート結果

- ・遊び場の選択では、自分の家、友だちの家、公園の三つが男女とも多い。
- ・男子では、公民館・しおさいセンターが2000年に比べ非常に多くなっており、遊ぶ人数も多い。
- ・女子では、子どもランドが2000年に比べて2倍になっており、遊ぶ人数も多い。
- ・遊びの内容は、男子では、ゲーム、ボール遊び、かけっこ・おにごっこの順であるが、女子では、かけっこ・おにごっこ、おしゃべり、ゲームの順である。
- ・保護者の満足度については、満足している割合は、どの遊び場でも40%以上あるが、公園に対しては、様々な意見がある。
例えば、球技ができない、木が多く視界が悪い、ごみや鳥の糞が多く衛生面で心配、人が少なく治安面で心配である、遊具が少ないなどである。

<グループトーク>

- i) 1班から6班に分かれてグループトークを行う。
1～4班のテーマ：「子どもの遊び場と見守る環境について」
5、6班のテーマ：「公園の使い方について」
各班とも、9名前後である。まちづくり協議会の方々は、オブザーバーとして参加する。
- ii) 市長、両副市長、部長、課長等が3人ずつチームをつくり、各班に加わり、討議に参加する。

<グループトークの報告>

- i) 1班「子どもの遊び場と見守る環境について」
 - ・小学校の6年間、児童クラブで過ごしたことは、子どもにとって大きな財産なのでその後のフォローができないだろうか。地域の若い担い手として活動できる仕組みがあるとよい。
 - ・片瀬山市民の家は、子どもたちが行けるように受付がある。浪合市民の家をそのように使えないか。
 - ・地域の活動を支えるコーディネーターの育成が必要である。例えば、地域の子どもの担当職員において、総合的な視点で、子ども対策を進めることが大切である。その際に公民館が核となると良い。
- ii) 2班「子どもの遊び場と見守る環境について」

- ・放課後の子どもたちの遊び場として学校を利用できないか。選択肢でも少ない。片瀬小学校では、一度家に帰ってから、学校にきて遊ぶ子どもは多い。但し、片瀬海岸に住んでいる子にとっては、家に帰ってから学校へ行くのは大変である。
 - ・低学年は14時30分に下校、高学年は15時15分に下校する。この間について、どこかで遊び場がないだろうか。例えば、浪合市民の家に立ち寄ることができるが良い。
 - ・地域で子どもたちを見守るには、どこを母体とするか検討する必要がある。
- iii) 3班「子どもの遊び場と見守る環境について」
- ・見守る人がいる「こどもランド」のようなものが必要である。
 - ・公園の遊具は、子どもの視点で整備していただきたい。
 - ・空き家の利用を検討してほしい。
 - ・学校を活用する際は、学年ごとの優先性を前提に検討してほしい。
- iv) 4班「子どもの遊び場と見守る環境について」
- ・居場所の整備が求められる。例えば、市民の家の有効利用が考えられる。そのためには保護者の参加が必要である。浪合市民の家を子どもが利用できるようにしてほしい。
 - ・新しくできるコミュニティハウスを活用したらどうか。
 - ・子どもの家やしおさいセンターもより使いやすくしたらどうか。
- v) 5班「公園の使い方について」
- ・遊び方が制限されている。球技については一律に禁止するのではなく、柔軟な対応が求められるのではないか。
 - ・子どもに分かりやすい使い方の表示を行い、説明する。
 - ・体力低下にともない、外遊びが必要である。広い公園であれば、自主的に利用できる。公園を増やしてほしい。
 - ・山本公園の集会所を手洗い所の改修に合わせて、改築してほしい。
 - ・子どもたちが話し合える場が必要である。
- vi) 6班「公園の使い方について」
- ・アンケートでは、「公園で何をしたいのか。」と質問したほうが良かったのではないか。
 - ・公園ごとにどんな遊びをしているのか調べてみる必要がある。
 - ・母が働いている子どもは、子どもの家か公園に行っている。
 - ・江の島には公園がないので、公園を設置してほしい。
 - ・公園利用では、時間を区切って活用している地域がある。

(12) 片瀬地区の状況図

片瀬地区の施設立地状況と第5章で説明する「居場所」を示した状況図を示す。

【図3-4】

【図3-4】片瀬地区の状況図

